

令和4年度 事業計画

I 研究主題

言葉による見方・考え方を働かせ、確かな資質・能力を身に付ける国語科学習の創造

II 研究主題について

本研究会では、現行の学習指導要領に則って研究主題「言葉による見方・考え方を働かせ、確かな資質・能力を身に付ける国語科学習の創造」を設定し、研究の歩みを進めている。

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』において、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を進める際に留意して取り組むことの一つとして、次のように述べられている。

深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等との学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。

このように、「見方・考え方」は学びの深まりの鍵となり、「見方・考え方」を働かせながら資質・能力を身に付ける学習過程を充実させることが求められる。さらに、「見方・考え方」は学びの本質的な意義の中核をなし、学習と社会をつなぐものとされている。

また、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』において、国語科の目標の冒頭には、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とあるように、国語科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として「言葉による見方・考え方」を示している。

更に、「言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。」とし、「言葉による見方・考え方」を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながることとなる。」と述べられている。

このように、「言葉による見方・考え方」を働かせることは言葉への自覚を高めることであり、資質・能力をよりよく身に付けることにつながるとされ、児童が「言葉による見方・考え方」を働かせることができるように学習指導を創意工夫していくことが求められている。

そして、本市では『横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領 国語科編』(平成30年)において、次のように「言葉による見方・考え方」を働かせる例を挙げている。

言葉による見方・考え方を働かせている例

- ・言葉の意味を知り、状況に応じて使い分けて関連付けている。
- ・文章の書き方や使う言葉を吟味している。
- ・相手意識をもって話す言葉を選んでいる。
- ・分かりやすい語句に書き換えるなど言葉を取捨選択している。
- ・自分の意見をもつために、根拠を明確にして考えを書いている。
- ・他者との交流や相互評価を通して新たな自分の考えに気付いている。

そこで、本研究会では、「確かな言語能力」を身に付ける国語科学習を創造するという、これまでの研究を継承し、「確かな資質・能力」を身に付ける国語科学習を創造することを目指して研究をしたいと考え、標記の研究主題を設定する。言葉による見方・考え方を働かせ、国語科において育成を目指す資質・能力「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を確かに身に付ける国語科学習を追究していきたい。そのためには、理論構築と授業実践双方の視点から研究することが大切であり、研究推進部と授業改善部、及び研修事業部とが有機的な連携を図って研究を進め、その成果を発信していく。

III 研究内容

言葉による見方・考え方を働かせ、確かな資質・能力を身に付ける国語科学習の創造
～深い学びに到達する「見方・考え方」を踏まえた単元づくりの在り方～

前述のように、学習指導要領においては、言葉による見方・考え方を働かせることによって資質・能力をよりよく身に付けることにつながることを示されている。また、言葉による見方・考え方を働かせる姿が表れるように学習指導を創意工夫していく必要があることが示されている。したがって、本研究会においても「言葉による見方・考え方を働かせ、確かな資質・能力を身に付ける子どもの姿」の具現化を目指す実践を重ねていく中で、どのような学習過程の工夫や手立ての工夫等を行うことによって、その姿が見られるようになるのかを明らかにしていくことを目指し、深い学びに到達する単元づくりの在り方を検証する。

そこで、確かな資質・能力を育む国語科学習において、「言葉による見方・考え方」を働かせている子どもの姿を具現化するための視点を以下に示す。①④⑤の視点については、研究推進部・授業改善部共通で深めていくが、②③⑥の視点については、研究推進部は「言葉による見方・考え方を働かせている姿」の「整理・系統化」を中心に、授業改善部は「姿の見取り・蓄積・有効だった手立ての分析」を中心に進めていく。

① 単元計画の工夫

課題解決的な過程を踏まえ、相手意識・目的意識をもった言語活動の中で、どのように言葉による見方・考え方を働かせる姿が生まれていくかを見取り、系統立てて整理する。

② 「話す・聞く」「書く」「読む」それぞれの領域における、言葉による見方・考え方を働かせている姿の具体と系統化

言葉による見方・考え方を働かせている姿を領域ごとに整理し、共通点や相違点に着目することで系統を見出す。

研究推進部 → 領域ごとの整理・系統化

授業改善部 → 「言葉による見方・考え方を働かせる姿」の見取り・蓄積・有効だった手立ての分析

③ 導入部、展開部、終末部それぞれにおける、見方・考え方を働かせる姿の具体と系統化

展開部については、領域や学習過程によって様々なパターンで見方・考え方を働かせている姿が表れる。導入部、終末部などは授業のねらい自体に共通性があると考え、具体と系統化を検討する。

研究推進部 → 学習過程ごとの整理・系統化

授業改善部 → 「言葉による見方・考え方を働かせる姿」の見取り・蓄積・有効だった手立ての分析

④ 児童が見方・考え方を働かせている姿をメタ認知するための手立て

児童と教師が授業のめあてを共有することが、育成を目指す資質・能力を身に付けるために効果を発揮すると考え、児童自身が見方・考え方を働かせる姿をメタ認知し、振り返ることができるような手立てをとることで、授業の質の向上を図る。

⑤ 学習評価との関連性

子どもたちがどう学んだかを評価しようとするとき、特に思考・判断・表現力について評価するときには、子どもが何について、どのように思考して、どう表現したかを見取る必要がある。同時に、どのように言葉による見方・考え方を働かせたことにより、資質・能力が身に付いたのか、あるいは身に付くまでには至らなかったのかを見取り、授業改善に生かす。

⑥ 年間指導計画の工夫

学年に応じて目指すべき資質・能力を螺旋的・反復的に身に付けていくことを考え、見方・考え方を働かせている姿の初歩的な姿とより高次な姿を考える。より高次な姿にいたるには、どのような姿を経る必要があるのか明らかにする。

研究推進部 → 発達段階を踏まえた「言葉による見方・考え方を働かせている姿」の整理・系統化

以上の研究の視点について、研究推進部と授業改善部が連携を図り、系統立てて整理し授業改善を行うとともに、研修事業部との連携を密にしながら研究主題の実現に向けて研究に取り組んでいく。

IV 組織

1 研究事業部

- ① 研究推進部 ○会長が委嘱した委員をもって構成する。
○現在そして今後、国語科で課題になることの理論研究・実践研究を先進的に行い、本市国語教育の推進をする。
○年度の終わりには研究の成果を発表する。
○授業改善部と連携して研究を進める。
- ② 授業改善部 ○〈1学年部会〉〈2学年部会〉〈3学年部会〉〈4学年部会〉〈5学年部会〉〈6学年部会〉の6部会とする。
○会員は希望する部会に所属する。
○小学校の6年間の成長を見通した具体的な提案や研修を通して研究を進める。
○部長・副部長は部会ごとに特色ある研究計画を立案し、運営にあたる。
○年度の終わりには研究の成果を発表する。
○研究推進部と連携して研究を進める。

2 研修事業部

- ① 研修部 ○会員の興味・関心に応えるとともに、その資質向上を図るため、講演会、研究発表会、授業力向上のための研修会等の企画・運営にあたる。
- ② 情報活用部 ○「はまの国語」及び研究集録「いきいきはまの国語」編集発行にあたる。
○国語教育を中心とした情報の発信・受信の役割を担うため、ホームページの内容の充実を図る。
○必要な調査活動、個人研究の蓄積と紹介、授業ビデオの収集と紹介等を行う。
- ③ 文集部 ○文集「よこはま」の編集、発行にあたる。
○文集「よこはま」の活用を推進する。
- ④ 書写部 ○書写実技の研修会の企画・運営にあたる。
○横浜市児童書写展の企画・運営にあたる。
※各研修事業部は、必要に応じて教育課程理論構築部や授業改善部と連携を図る。

3 本部

- 授業研究会、総会、及び上記以外の事業等の企画・運営にあたる。
○必要に応じて臨時総会を開催する。
○横浜市小学校教育研究会の案に基づいて、国語教育研究会の改革について検討したり、改革の見直しを行ったりする。

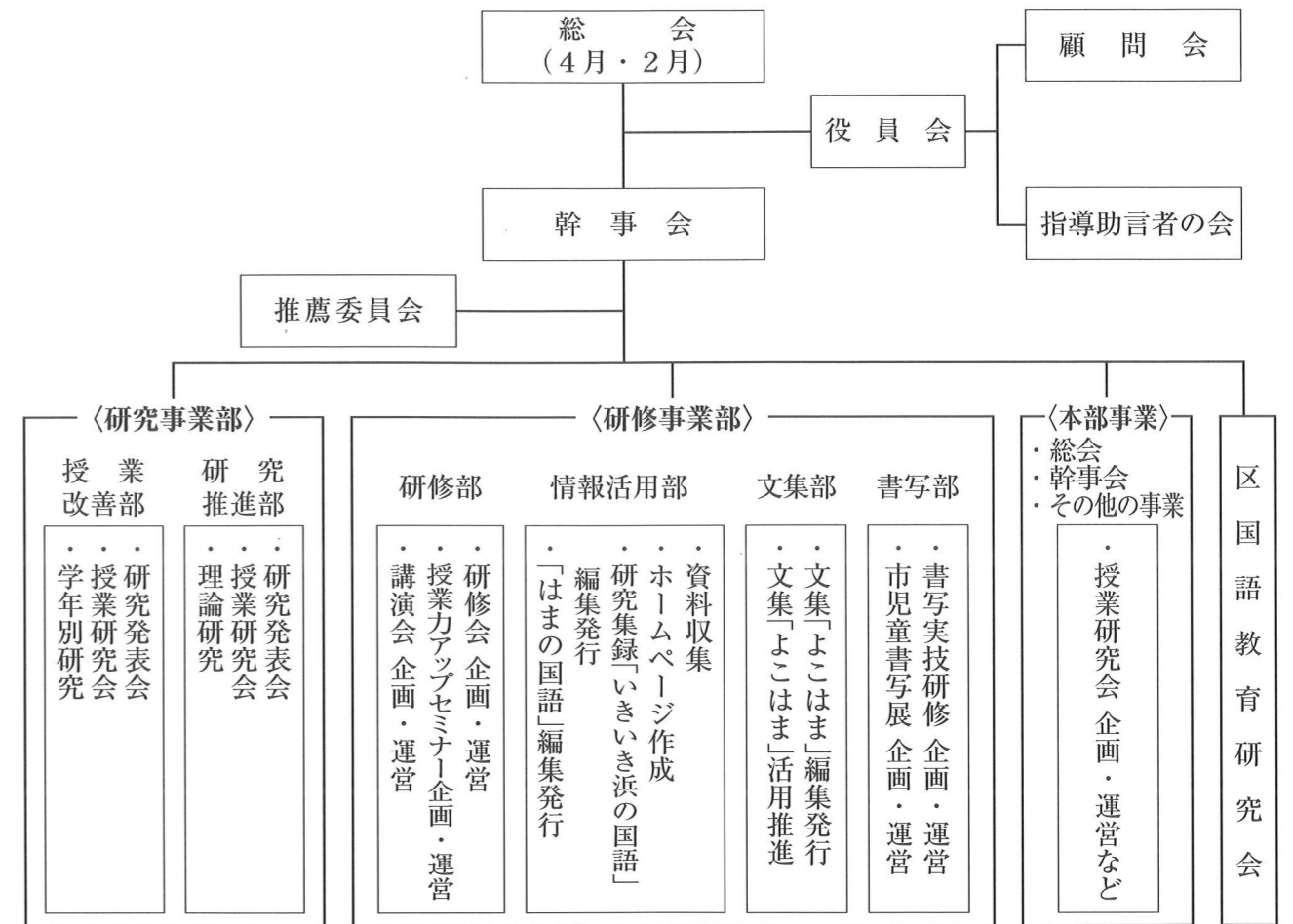
4 各区国語研究会

各区部長

- 区国語教育研究会の企画・運営及び活動内容を幹事会等で紹介する。
○市書写展担当委員を選出する。(各区から2～3名)

《研究会の組織》

言葉による見方・考え方を働かせ、確かな資質・能力を身に付ける国語科学習の創造



横浜市小学校国語教育研究会のホームページ

下のアドレスにアクセスしてください。

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/kenkyu/es-kokugo/index.htm>

【内容】

- 国語教育研究会の活動計画、活動内容などの概要を載せています。
- 会員は、所属している部以外の活動の様子を知ることができます。
- 会員以外の先生は、国語教育研究会の活動や研究内容・方向の概略を知ることができ、国語の授業に役立てることができます。

ホームページ作成上の留意点

- 情報活用部が中心となって作成します。
- 作成にあたっては、「横浜市インターネット情報発信ガイドライン」に則ります。
- 文集「よこはま」等を引用し、児童名を載せる必要がある場合は、個人が特定できないようにします。
- 総会、講演会、研究事業部、研修事業部等の活動を紹介します。
- ホームページに載せたい場合は、各部会が情報活用部に連絡後、原稿をCD-ROM等に入れ、データでお渡しください。